

15:00

報道資料

平成24年6月11日(月)

件名 防衛大臣政務官の来庁について

概要 本日、防衛大臣政務官から岩国飛行場の運用（オスプレイの陸揚げ・準備飛行等）に関する説明がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 日 時：平成24年6月11日(月) 9時00分～9時20分
2. 場 所：政策審議室
3. 来庁者：防衛大臣政務官 神風 英男（じんぷう ひでお）
4. 対応者：岩国市長 福田 良彦（ふくだ よしひこ）
岩国市議会議長 松本 久次（まつもと ひさつぐ）
岩国市議会副議長 貴船 斉（きふね ひとし）

5. 政務官からの説明の概要

(報道等について)

- ・ 本件については、本日、はじめて岩国市にご説明し、ご理解を求めようとするものであり、政府として、信頼関係を損なうことのないよう、誠意を持って対応していく。
- ・ 先般の岩国錦帯橋空港の共用開始目標日の設定については、本日、防衛省として岩国市にご理解を求める件（オスプレイの陸揚げ・準備飛行等）とは一切関連がないことを明確に申し上げる。

(配備の方法)

- ・ オスプレイの普天間飛行場への具体的配備の方法については、米側においてこれまで検討されてきたところであり、今年の後半に、普天間飛行場への配備が予定されており、米側からは、接受国通報を行った後、日本に到着する予定になっていると聞いている。
- ・ 沖縄の現状を踏まえつつ、より安全・円滑に沖縄への配備を実施するという観点から日米間で配備方法を検討した結果、オスプレイを船舶で輸送・陸揚げし、機体整備及び若干の準備飛行を行うことを考慮すれば、技術的に陸揚げ等を行い得る防衛施設は那覇港湾施設又は岩国飛行場であると考えられる。
- ・ このうち、岩国飛行場は港湾施設を有する飛行場であることから、那覇港湾施設に比べて、より安全・円滑に沖縄への配備が実施可能との結論が得られたところである。

(実施期間・飛行経路・安全性)

- ・ 陸揚げするオスプレイは普天間飛行場に配備する12機であり、滞在期間は普天間飛行場への配備方法によりますが、10日間から14日間程度を見込んでいる。
- ・ オスプレイの配備については、あくまでも一時的に陸揚げ等するものであり、岩国飛行場への配備を目的としたものではないことを明確に申し上げる。

- ・ オスプレイは安全性が確保された航空機であると考えている。また、今回の運用に当たっては、同機を岩国飛行場に陸揚げし、海上側に設定された既存の有視界飛行及び計器飛行の経路を使用して準備飛行を実施し、その後、普天間飛行場に向けて飛行する予定となっていることから、安全面で特に問題ないものと考えている。
- ・ 準備飛行は海上で行い、市街地上空で行うことはない。

(モロッコでの事故)

- ・ モロッコでの事故については、米側より、航空機事故安全調査の結果概要について連絡を受けたところである。それによれば、機体はオスプレイ海軍訓練運用手続標準マニュアルどおりに機能しており、機体に機械的な不具合はなかったとのことであり、機体の安全性に何ら問題はないとされている。
- ・ 航空機事故安全調査とは別に、航空機事故により死亡・重傷が発生した場合等に行われる法務官による調査が同時に行われているところであり、当該調査は本年遅くに終了するものと見込まれている。今後、新たな情報が得られましたら、ご連絡させていただく。

(環境レビュー)

- ・ 環境レビューについては、オスプレイの普天間飛行場への配備後の岩国飛行場における同機の運用による環境への影響はかなり限定的と考えているが、いずれにせよ、改めて丁寧に説明させていただく。

(在沖縄海兵隊の移転)

- ・ 海兵隊の移転については、地元のおかれた状況は十分に理解しており、これ以上の負担増をお願いする考えはない。

(海上自衛隊の残留)

- ・ 海上自衛隊航空部隊の岩国残留については、市の要望を重く受け止め、現在、具体的な検討・調整の作業を行っているところであり、早期に結論を得られるよう前向きに検討してまいりたい。

(関連情報)

- ・ 岩国飛行場に所在していたCH-53Dの部隊は、2005年6月以来、「不朽の自由」作戦及び「イラクの自由」作戦への増援として、一時的に岩国飛行場から中東に派遣されていたものと承知していますが、今般、米側から、イラクやアフガンにおける作戦の終了を受け、当該部隊は、米軍再編のロードマップ合意によりグアムへ移転することとなっていること等を踏まえ、岩国へ戻ることなく、米本土においてオスプレイに換装した後、グアムへ移転する予定であると説明を受けたところ。

(岩国市への要請)

- ・ オスプレイの岩国飛行場への陸揚げ及び準備飛行については、沖縄の不安解消にもつながるものと考えており、是非とも岩国市の理解を賜りたい。
- ・ 岩国飛行場における今回のオスプレイの運用は極めて限定的なものであり、同飛行場への配備を目的とするものではない。また、安全面や騒音面でも基本的に影響は少ないものと認識しており、政府として、是非とも実現したいと考えている。

6. 市長コメント

本日は、神風防衛大臣政務官から、オスプレイの岩国基地での陸揚げ・準備飛行等について、説明及び要請がありました。

政務官に対して、本日の訪問の前に政府筋の話で「岩国市が容認している」かのような報道があったこと、岩国錦帯橋空港の開港目標日が発表されたと同時に報道にあるような話が浮上することは心外であり、大変遺憾である旨を伝えました。

米軍基地問題は岩国市や沖縄県だけの問題ではなく、我が国の安全保障のあり方の中で、日本全体で考えるべき課題であると考えております。

こうしたことから、同じように基地を抱える自治体として沖縄の不安感や負担などは理解できるところでありますが、私としては、市民が安心して安全に暮らせる環境を確保していく立場から、今後、同機の安全性等についてしっかりと確認し、県とも協議した上で、判断してまいりたいと考えており、本日、この件を了解したわけではありません。

担当課 岩国市総合政策部基地政策課
岩国市議会事務局

TEL0827-29-5024/Fax0827-21-3572
TEL0827-29-5190/Fax0827-21-1001